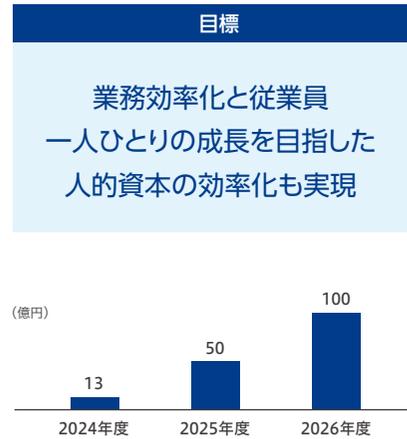


ベストプラクティスプロジェクト

ベストプラクティスプロジェクトは、2024年度から本格始動したプロジェクトです。

これまでは社内の知見でコストダウンを実施してきましたが、このプロジェクトでは、「コストベンチマーク」や「最適なコストダウン手法」など社外の知見を全面的に活用し、社長直轄体制で徹底的にコストダウンに取り組んでいます。

このプロジェクトの推進により、2024年度は年間13億円のコストダウンを達成しました。2025年度は年間50億円、2026年度には年間100億円以上の成果獲得を目指します。また、これに加え、業務効率化と従業員一人ひとりの成長を目指した人的資本の効率化も実現します。



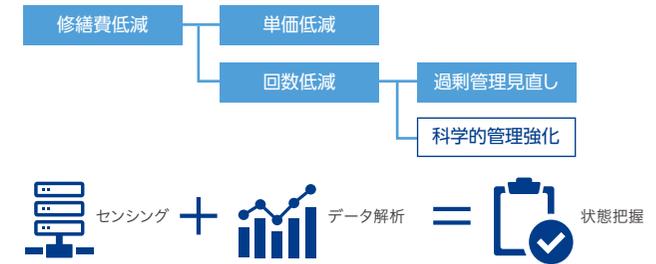
実績と今後の取り組み

2024年度	競争環境醸成やユーティリティの契約見直し等による13億円(目標+3億円)のコストダウンを達成		
2025年度以降	施策	施策概要	目標値
	原価低減	<ul style="list-style-type: none"> 設計変更や部材標準化による原材料コスト適正化 購買組織強化、デジタル化をベースとした調達システム強靱化 科学的アプローチで定期保全(TBM)から状態基準保全(CBM)にシフト 	30億円
	サプライチェーン改革	<ul style="list-style-type: none"> 物流ネットワーク最適化(他社との連携) 物流サービスレベルの適正化 	20億円
	販売経費低減	<ul style="list-style-type: none"> 競争環境の醸成や集約化による単価低減 全社ルールの導入・改訂による量・経費単価の適正化 	15億円
	労働生産性向上	<ul style="list-style-type: none"> ゼロベースでの業務・役割分担・内外製の見直し、階層適正化 上記で生じた余剰人員の強化領域への再配置 	15億円
	投資コストの適正化	<ul style="list-style-type: none"> 必要性精査、集約化、競争環境の醸成等によるコスト適正化 	10億円
	グループ会社への展開	<ul style="list-style-type: none"> 本場で設計した施策の子会社でのフル活用 コスト削減手法のグループ全体でのナレッジ化 	10億円
		100億円	

事例紹介

① 修繕費低減

機器の摩耗・損傷度の計測データ不足から、定期保全で設備の健全性を担保しており改善の余地がある。



センシング・データ解析により機器のコンディションを把握

定期保全(TBM)から状態基準保全(CBM)にシフト

保全回数の適正化によるコスト低減を実現

② 契約電力(上限値)の適正化

契約電力と実績電力に差分があり、電力消費量の予測精度向上による改善余地がある。



前年実績に生産量・設備増減、外気温変動の予測を反映
電力量リアルタイム監視・電力ひっ迫時の対応マニュアル確立

契約電力の適正化によるコスト低減を実現